

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298600063		
法人名	社会福祉法人 つばさ		
事業所名	たけんこグループホーム		
所在地	〒298-0025 千葉県いすみ市山田5897番地		
自己評価作成日	平成27年2月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成28年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オープンして2年弱で、まだまだ足踏み状態ですが、内部スタッフを充実させ、入居者が安心して生活できるグループホームを作り上げたいと思いつつ、日々努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「たけんこグループホーム」は見晴らしの良い丘の上に建っており、のどかな自然に囲まれた環境の中にある。同法人の障害者施設・デイサービスの行事参加・訪問・合同消防訓練等、交流が行われており、入居者の生活活性化に繋がっている。また、運営推進会にてミニ勉強会・行事・食事を同時開催する等、家族から理解促進や出席率の向上につながるよう取り組んでいる。年4回の消防避難訓練では、消防署立会い訓練・夜間想定訓練・地震想定訓練・併設施設との合同訓練等を行い、災害時の対応方法を確認している。また、救命救急講習やAEDの設置等、入居者の急変に備えた対策が整備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は出勤時入口にて掲示してある理念を復唱する様にしている。名刺サイズを作成し本人に配布し意識を高めている。	入居者の尊厳と自立を重視した施設独自の理念を掲げており、事業所内に掲示している。会議を活用して、理念に立ち返る機会を設けており、日々のケアについての統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は難しいがと、案山子祭りと地元小学校で実施されるイベントに参加しました。	地域行事への参加やボランティアの受け入れ等、積極的に地域との関係作りに努めている。また、保育園・小学生・障害者施設との交流も行われており、世代間交流にも取り組んでいる。今年度は施設行事に家族や市役所職員を招待しており、施設理解の促進にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員会の研修事業を受け入れ、ホームの状況と利用方法を説明しました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回の運営推進会議とホーム事業を同日実施し、家族に入居者の状況を理解して頂き、生活状況等に話し合いを行っている。	運営推進会議は、年6回開催しており、市役所職員・民生委員・家族・職員等が出席している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設の理解促進及びサービスの質の向上に活用している。他に、ミニ勉強会や行事を同時開催する等、出席率の向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の席に同席して頂きホームの情報や今後の体制等を相談している。	日頃から市に対して、業務における相談や報告を行うと共に、運営推進会議への出席等を通じて、交流及び連携を図っている。	

【千葉県】たけんこグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を積極的に受講したスタッフより日々のケアで拘束のナイケアを実施している。	身体拘束排除に関する研修に参加すると共に、研修内容の職員への周知・情報の共有を図っている。入居者の安全・家族の要望に配慮し、玄関等の施錠を行っているが、随時、声掛け・見守りを行い、安全で自由な生活を支援している。今年度は身体拘束排除委員会を立ち上げ、適切な対応・理解浸透に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の利用者との関わりの中で身体的・精神的虐待が行われない様に職員全員で注意し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	未実施		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定等に付いては事前に運営推進会議にて説明し具体的内容が明確になって際には文章にてお知らせする		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、必ず家族からの意見を頂く様にし、意見を取り入れる様に努めている。	家族の面会時や電話連絡時等に直接意見・要望を確認している。また、運営推進会議に家族も参加しており、意見・情報交換の場となっている。挙がった意見・要望等は、会議や連絡ノートにて検討・共有を図り、迅速かつ適切な対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議にて、今後の方針等を話し、意見交換を実施している。	会議・連絡ノートを活用して職員の意見・提案を確認している。ホワイトボードやメモ用紙を活用すると共に、ミニケア会議を頻繁に開催しており、情報の共有を強化している。また、職員の育成計画書を作成しており、計画的な人材育成に取り組んでいる。	介護の基本となる技術・手順・方法等の統一化を図るためにも、マニュアルの整備を行い、周知する事により、施設の方針・基準に沿ったケアの統一に取り組んでいただく事を期待します。

【千葉県】たけんこグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	OJTをと取り入れ、スタッフの業務への取り組みを把握している。又スタッフ間で声掛けしながら助け合いながら仕事ができる環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修を自ら受講する様に働きかけている。又法人の研修会等に付いては多くの参加が出来るよう呼びかけをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等の参加をしながらネットワーク作りに取り込みが進んでいます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所してから、少しずつ時間を共にしながら、ゆっくりと安心できる関係づくりに努めている。ホームの生活に慣れていただけるよう、安心して過ごせる様、声掛けしながら関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の際に、ご家族との話し合いを十分に実施し、ご家族が安心して入居を決められる様に努めている。体験入所を取り入れ家族が安心して入所決定が出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族と話し合い、ケアマネが優先順位を作り、介護プランを作成しながら実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、趣味や出来る事を把握しながら入居者同士助け合っています。共に環境整備を実施したり食事の準備も実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族連絡を実施しながら、面会や外出の支援を実施しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達の面会を受け入れ、共に話し合いに参加して、今後の面会をお願いしています。	家族との外出・外泊は自由となっており、家族関係の継続を支援している。入居者の希望に応じて、友人の来訪受付や電話・手紙のやり取り等も支援しており、関係継続に配慮している。他にも、併設のデイサービスとの交流が馴染みの関係継続や新たな馴染みの関係構築の機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクを実施しながら、皆で助け合う事が出来る環境作りを実施しています。環境整備時には単独で無く複数で実施し仲間意識が確立できるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した時には、お見舞いに行ったり、自宅に帰った場合は介護相談や医師連絡も実施し家族支援に取り組んでいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自立支援を重視し出来る限り希望を取り入れています。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況を確認していると共に、医療機関や他のサービス事業所から情報提供を受ける等、より詳しい情報の把握に努めている。新しい情報は、会議・ホワイトボード・連絡ノートを活用し、全職員で周知・検討・共有を図っている。	日々の日誌等、公の記録を取る際はボールペンを使用する等、適切な記録方法を統一する事を推奨いたします。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネ等から情報収集し把握に努めています。又面会時等に家族とお話しし新たな情報収集で対応を取り入れています。		

【千葉県】たけんこグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の個々の状態で、レクや食事等にも支援を変えて実施しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月実施しているケア会議で、話し合い介護計画を作成して実施に取り組んでいます。又必要時必ず話し合い適切な介護計画を作成しています。	会議で意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。介護計画作成後、職員が計画内容を理解しやすいように要点を別紙にまとめており、適切なケアの実践に取り組んでいる。	担当者会議を開催した上で、適切に議事録を保管し、本人または家族の意向やニーズを把握すると共に、介護計画の作成の過程が明確になるよう工夫していただく事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過表を使い、入居者の状況をスタッフで共有し介護支援に努めています。連絡ノートを活用し常に情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医院の導入や薬剤師の導入を実施しながら施設で出来ないサービスを実施している。又必要時には主治医の往診を受け入れ、安心できる様支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	未実施		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や受診時には、医師と連携を取りながら支援しています。	希望の掛かりつけ医への受診及び内科医の往診を実施しており、通院の際には職員が通院の付き添いを支援している。看護職員を配置しており、日頃の健康・服薬管理等の支援が行われている。受診状況や医療面に関する情報をノートにまとめており、適切な連携・情報交換に活用している。	

【千葉県】たけんこグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は実施されていないが、施設内看護師との相談は常時実施される体制になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの実施や病院に出向いての話し合いを実施して、より良い関係づくりに取り組んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族と共に方向性を話し合いを実施しホームで出来る限り生活が送れるよう支援しています。	契約時に終末期・重度化に関する施設方針を説明し、同意を得ている。必要に応じて、医師・家族と検討を重ね、方針を決めながら適切な支援が行えるよう体制を整えている。また、他のサービスや医療機関への切り替えが必要な場合には、切り替えがスムーズに行えるよう関係機関との協力体制も整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修会に参加可能なスタッフは参加して、救急時の対応を学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を消防署の指導の元、年4回の計画で実施しています。夜間勤務が1人なので、夜勤時の避難訓練も実施しています。	スプリンクラー・火災報知機・自動通報装置等の消防設備を設置していると共に、年4回の消防避難訓練を実施している。訓練では、消防署立会い訓練・夜間想定訓練・地震想定訓練・併施設との合同訓練等を行い、災害時の対応方法の確認・周知を徹底している。救命救急講習の受講やAEDの設置等、入居者の急変に備えた対策が整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に日々の支援の中で、注意しながら実施を心掛けています。時に入居者間で場に相応しくない発言がある時にはスタッフが中に入り話題を変えながら入居者の尊重が保てるよう支援しています。	法人の心得を全職員に配布すると共に、接遇・プライバシー保護・法令厳守等の研修も行っており、意義の周知や理解促進を図っている。また、会議時には理念の確認を行っており、職員の意識の向上を目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に日々の支援の中で、注意しながら実施を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のタイムスケジュールにこだわらず、本人の希望にそった支援を心掛けるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が持参した衣服をスタッフが上手に合わせて着用できる支援を実施しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立を入居者の好みで作成しています。今ま出来なかった、入居者と共に食事の準備や片付けが新規入居者により実施出来る様になりました。	入居者の希望や身体状況に応じて、食事の準備から片付けまで職員と共同で行っている。昼食は近隣の障害者施設から提供されているが、それ以外の食事は施設内で調理している。職員が献立作成・食材の買い出し・調理を行っており、季節の食材や入居者の嗜好に配慮した食事を提供している。定期的に外食会や特別食を企画・実施すると共に、家族や外部の人も参加しており、食に対する様々な楽しみを提供している。	

【千葉県】たけんこグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体重や食事量にあわせて、決めて食事支援を実施しています。季節に応じ水分摂取等には厳しくスタッフが配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しています。立位の取れる方は必ず洗面所にて実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し記録する事により、個々の排泄パターンを把握しながら、排泄の自立支援を行っています。自立している方にはいつまでも自立できている様時には声掛けしながら失禁しない様に支援しています。	一人ひとりの排泄状況・水分及び食事量の記録基に、個々の排泄パターンに合わせた適切な支援を行っていると共に、声掛けやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けて取り組んでいる。必要に応じて医師・看護師と相談しながら適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に根菜類、きのこ類をとりいれたり、起床時の牛乳摂取を実施し便秘予防を実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については一応決まりを設けていますが、声掛けや希望で実施しています。	入居者の体調や希望に配慮し、柔軟に対応しながら適切な入浴の機会を設けている。必要に応じて、清拭・部分浴を実施しており、入居者の清潔維持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の好きな人には、午睡を取り入れ、しない人はレクを実施して、自由に行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指示の元間違いが無いように実施しています。服薬チェック表を記録しています。体調の変化時にはお薬との関係はないかと看護師と検討しています。		

【千葉県】たけんこグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとの支援は、日々実施に努めています。また役割については現在少しずつ出来るようになってきました。居室・廊下・リビングの環境整備や洗濯干し・洗濯等たみ等たくさんの仕事により日々楽しく過ごせる様支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は行事としての外出、また庭の散歩程度の支援にとどまっています。スタッフが買物に出る時に同行出来る入居者は出来るだけ外出の機会として実施しています。	日頃から散歩やドライブ等の外出の機会を設けていると共に、施設敷地内や菜園等を活用し、気軽に外気に触れられるように配慮している。定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。同法人の施設との交流が行われており、入居者の生活活性化に繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材の買物に同行できる入居者は同行し、好きなおやつを購入できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の許す限り電話を掛けたり、かかってきた電話を取り次ぐ様に支援しています。また携帯電話の利用も出来るよう支援しています。手紙のやり取りは自由です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には入居者の作品や写真を貼って、居心地良く生活できるよう考慮しています。	施設内は、バリアフリー環境となっており、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。共有スペースには椅子・テーブル・ソファが設置されており、自由にくつろげる環境作りがなされている。両ユニット間には多目的ホールがあり、ボランティアの発表や行事開催時に活用されており、楽しみの提供の場となっている。	

【千葉県】たけんこグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを設置し自由に座ってお話ができる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、制限する事無く自宅の様に頂くよう家族にも話、自由に使っています。	馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く生活できる様配慮している。布団を敷く事・福祉用具の導入・テレビの設置等も可能で、入居者の生活歴・身体状況に合わせた居室作りを行っている。各居室に鍵や収納スペースが設置されており、プライバシーの確保がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援をめざし、危険のない限り制約せず生活できるよう支援しています。		